

基礎

前立腺癌のホルモン療法抵抗性の機序と precision medicine への応用

Mechanism of hormonal therapy resistance in prostate cancer and its application to precision medicine

塩田 真己 Masaki Shiota 九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野講師

keywords

- アンドロゲン受容体
- 去勢抵抗性前立腺癌
- 去勢感受性前立腺癌
- 一塩基多型
- precision medicine

Summary

前立腺癌の薬物療法として、去勢治療を中心とした従来からのホルモン療法に加えて、近年アピラテロンやエンザルタミドといった新規アンドロゲン受容体標的薬が登場した。しかしながら、多くの進行性前立腺癌において各種ホルモン療法に抵抗性を示すようになることが、臨床上大きな問題である。それに加え、さまざまな治療選択肢が登場した現在、各種ホルモン療法の有効性を予測するバイオマーカーが確立されていないといった問題も存在する。

本稿では、新規アンドロゲン受容体標的薬を含めたホルモン療法に対する抵抗性の分子機序とホルモン療法に対するバイオマーカー開発の現状について、アンドロゲン受容体シグナルに関するものに焦点を当てて概説する。